

---

Crimson-Reason.

霧.

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

C r i m s o n - R e a s o n .

### 【Nコード】

N 3 4 0 8 B A

### 【作者名】

霧 .

### 【あらすじ】

一人の少女が死んだ。高校生の少女だった。理由も犯人も不明。ただ、分かるのは「少女が死んだこと」それだけだった。警察も、殆ど何もできないまま、全てが思い出しに、日常になるのか。そう思った矢先に今度は一人の親友が消えた。理由も分からずに、ただ「行ってくる」それだけを残して。それから半年経った頃、浅村瑞樹とレナード・アウリオン、そして、死んだ高宮唯の喜悲劇が始まった。

## 葬式

残冬。まだ、桜や梅が、その花の蕾を枝に付ける前の、木に空から降り積もった雪が溶けきらない頃、一人の少女が、暗い箱の中で深い眠りについた。

彼女の周りには、一人一本ずつの白い花を添え、彼女を美しく飾り、彼女に祈りを捧げて、その場から去っていく。まるで、全て白い花のみで造られた花畑から、白を強調させる為に間引かれる黒い花の様だ。そしてやがて、黒い花は、二輪ふたりの若い花男だけになった。

二人は、彼女を囲むように立つと、それぞれ渡された白い花を、彼女の周りに添えていく。茶髪に近い黒髪の少年は、彼女の左手の近くに、銀髪の少年は、右手の近くに花を添える。二人は添えた花から手を離すと、静かに祈りをささげ、その場から去っていった。

扉が、どこか古めかしい音を響かせながら時間が止まった様に、しかし、確実に閉じていく。扉が完全に閉まった、その数十秒後、部屋から、小さく燃えさかる音が聞こえた。

その音を、少し離れた所で聞いていた二人は、焚火の音とも、ガスコンロとも、花火とも違う、飛行機に乗った時に聞こえる耳鳴りのような音を、身をすくめながら聞いていた。

ふと、銀髪の少年が顔を上げると、少し震えた声で言った。

「なあ、瑞樹。浅村あさむらみずき瑞樹。何で……アイツは燃やされる？」

浅村瑞樹と呼ばれた茶髪に近い黒髪の少年は、両目を閉じて、答えを述べる。

「……何度、言わせるんだよ、レナード。レナード・アウリオン。彼女は……高宮たかみやゆい唯は死んだんだ。体を数ヶ所、刃物で刺されて。お前の故郷じゃ、土葬がセオリーなんだろうけど、この国じゃ、火葬がセオリーなんだ。燃やされるのは……仕方ないよ」

「違う！」

瑞樹の答えに、レナード・アウリオンと呼ばれた銀髪の少年は、そ

の答えを、力任せな声で否定した。

彼は、ぶら下がったままの右手を、瞳を覆い隠す様に顔に置く。

「俺が聞いているのは、何で、唯が殺されなきゃ……死ななきゃならなかったか。だ！くだらない後日談なんか、ハナから考えてないからな……！」

そう言い放つて彼は顔を潰す勢いで右手を強くしめる。

瑞樹の位置からでは、彼の表情はよく見えない。

だが、手の平からあぶれた、口の端と、指の隙間から見えるわずかな目の端しか見えないが、それだけでも、よく判る。

彼女を殺した犯人への怒りや憎しみ。そして、高宮唯という、大切な人を失った、悲しみと絶望。それら「負」の感情が、彼の中で渦巻いているのが、表情からも、彼の周りに張られた空気からも、それが痛いほどに伝わってくるのが分かった。しかし、だからといって、彼の問いに正確に答えてくれる人間など、この式場には居ないいや、日本中、世界中を探しても、彼女を殺した張本人以外は、誰も答えられないのだ。人は仮説や予想を立てる事はできても、それを立証できる人は、僅かしか居ないのだから。彼は、それが理解できているからこそ、こんな複雑な感情が滲み出ているのだ。

ふと、彼は右手を顔から離すと、

「なあ、瑞樹。俺達の世界は、変わるんだろうか」

と、言った。瑞樹は一瞬、目を見開くと、落ち着かせるように言った。

「そりゃ、少なからずは、変わるだろう。だけど、時間が経てば、いずれ忘れて、日常に変わるんだ。違うか？」

その言葉はまるで、自分自身を慰め、落ち着かせる言葉にも聞こえるが、実際、そうなのだろう。

彼もまた、大切な人を失った悲しみに、苛まれているのだ。そんな彼の答えにレナードは、

「……そうだな」

ただ短く、まるで自分自身を納得させるかのように、静かにそう答えた。

その、翌日のことである。

銀髪の少年、レナード・アウリオンが、行方不明となったのは。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3408ba/>

---

Crimson-Reason.

2012年1月8日21時49分発行